

都市政策・地域経済ワークショップII 講演要旨

【テーマ】 ハローご近所！ーご近所を素敵に変えよう！ー

【日 時】 令和4年12月9日（金）18時30分～21時20分

【講 師】 都市計画家・株式会社サルトコラボレイティブ代表 加藤 寛之 氏

0. はじめに

▶新しい都市計画の方法を提案する。

ハードを造るという20世紀的な都市経営課題の解決策は時代遅れとなり、21世紀は有限なリソースをマネジメントするというソフトを考えていく必要がある。

▶株式会社サルトコラボレイティブの事業内容

ご近所を素敵に変えよう

自治体の下請けではなく、地域で事業を作り出すことを基本的な考え方として仕事に取り組む

▶99年にsarto.を立ち上げ、師匠（都市計画家・高田昇）のもとで学ぶ

▶地元の人が友人を連れてきたくなるお店

→地元の人が愛してやまない店（実は外の人がかかるお店）

『近き者悦び、遠き者来る』

1. これまでと、これから（時代は変わった！）

▶未曾有の人口縮退、これまでの都市計画は人口増加のタイミングで作られてきた

→しかしこれからは人口減少！

【これまで】

人口増、生産年齢人口割合増加、市場拡大局面など、誰でも儲かる（商売が下手でもなんとかなる時代）

→みんなという幻想が成立した時代、行政機構が上手く振る舞えた時代

【これから】

人口減、生産年齢人口割合減少、市場縮小局面、（個性、能力が大切。多数ではなく、少数）

→エリアの個性が活きる

▶人口減少時代を楽しく生きる法則（全部逆！）

中心・都心→分散・ローカル

建てるのが正義→建てないのが正義

機能分化・鈍化→複合・混合・多様

→その街の良さを知って、面白がっている人がその街を変える、地域の課題を意識せず、地域の課題を解決する

2. 都市計画はどうあるべきか？

▶都市計画 … 都市経営課題への処方箋

◎都市経営課題

19世紀 不燃化・生活環境改善

20世紀 人口増と都市への集中

21世紀 人口減・価値多様化

◎都市計画は処方箋

19世紀 オスマンのパリ改造

20世紀 ゾーニング・分化（機能的都市）

21世紀 都市の価値を再定義

◎多様性は耐え難い、機能的都市へ

頑強な都市＝危うく、脆い

分断、孤立、ストレス

→多様性が守られた都市の方が価値は高くなっている

▶POINT

21世紀は、多様性を担保しつつ、しなやかに、反脆い都市が求められる

多様性を担保し、寛容する仕掛けでないと、都市は発展できず停滞する。

3. 少数派がまちを変える（ムーブメントをつくる）

▶まちに元気がない理由

→大多数は街を楽しんでない
→楽しんでない大多数の意見を聞くの？

▶イシュードリブンからプレイフル・ドリブン

課題をもととせ、身銭を切って、まちを面白がっている人が街を変える→けど、今は少数派

少数派を大切にしてみる（ファンがファンをつくる）

▶まちを面白がる少数派を大切に

→志向で捉えることで性別・年代・距離を越える

◎従来の計画づくり・シンプルな法則（新しいマネジメント）

▶POINT

魅力を伝える相手をみんなから一人

少数に絞ることで結果的に多数に広がっていく、マネジメント手法を変えないといけない、

→リソース不足

4. ご近所を素敵に変えよう

ご近所のイメージ

昭和町（Buy Local）：自転車で10分にある天王寺

→自分のまちに何もなくても困らない

▶POINT

①近所の喫茶店に入れないのに、遠くのスタバに入れる症候群

②流通の変化→消費行動の変化→住んでいるエリアに期待感無

5. まとめ

▶社会はどうやって動かすのか？

→都市像を目指すには、社会を動かさないといけない

▶POINT

ムーブメントは多数から始まらない。

今見えているものをどう未来に変換できる人がこれからは重要。

大多数は変換できない、少数派がまちを変える。

一般大衆の中に未来は無い。ゴールはみんなのために。

自分が暮らしたいまちをつくる。

[執筆者：松本 隼人]